

海外情報

No.16

調査者	加茂智彦
情報ソースの刊行日	2020年4月26日
情報ソースの調査日	2020年5月5日
日本理学療法士学会 HP に公開された日	2020年5月6日
日本語タイトル	フランスの長期療養施設における COVID-19 関連死：監禁病はおそらく COVID-19 それ自体よりも有害である
情報ソース	Journal of the American Medical Directors Association
情報のカテゴリー	施設入所者
発信地域	フランス
DOI	Doi: https://doi.org/10.1016/j.jamda.2020.04.023
URL	https://www.jamda.com/article/S1525-8610(20)30354-6/fulltext
要約	<p>COVID-19 は高齢者と慢性疾患がある人が重症化しやすい。長期療養している入所者は重症化しやすい二つの要因を持っている。フランス全体の死亡率は 10% であるが、施設療養している入所者の死亡率は 30% に達しようとしている。ある一つの施設を調査したところ、5 日間で 140 人の入所者の内 24 人が死亡した。この施設では急性呼吸症候群での死亡ではなく、多くは血液量減少性ショックが原因の死亡であった。多くの犠牲者は監禁のため一人部屋に移され、マスクの不足や 40% 近い介護者の理由なき欠勤の影響による介護者の作業過負荷により、何日間も介助がない状態であった。感染した介護が必要な入所者は閉じ込められ、飲むことや食べることなど日常の介護すら受けられなかった。加えて、開業医は感染者のために施設を訪問することをストップし、遠隔医療を制限した。適切な資源の不足による”監禁に関連した病気”は COVID-19 それ自体より致命的な結果を引き起こすことを証明した。</p> <p>この現象はヘルスケアのスタッフと医師が物理的にたくさんいる施設では認められなかった。実用的な医療とケアの提供が介護が必要な高齢者において、感染の計り知れない影響を制限できるだろう。</p>
最も注目するポイント 理学療法にどのように役立つか？	医療崩壊が起きている施設の状態を知ることができる。